

【緑地を楽しむ本】

『クリスティーナとおおきなほこ』

パトリシア・リー・ゴーチ / 作 ドリス・バーン / 絵 おびか ゆうこ / 訳
偕成社



緑地のお茶の木がある所に連れて行っていただいたことがあります。あの斜面を見たとき、「段ボールがあったら、滑れるかなあ」と密かに考えました。この絵本を読んで、ふとその時のことを思い出しました。

クリスティーナはいろいろなものを集めています。あきかんや、

こわれたとけい、よれよれのネクタイとか・・・でも、いちばん好きなものは、箱でした。

ケーキの箱、くつの箱・・・あるひ、クリスティーナの家
に大きな冷蔵庫が届きます。もちろん、大きな箱に入
って。おかあさんは、大きな冷蔵庫にうっとり。クリ
スティーナは初めて見る大きな箱にうっとり。

さっそく庭に運んで何を作ろう？ まずは、おとうさんも

手伝ってくれて、まどやとびらをつけて、ぎざぎざの塔
を描いて・・・お城になりました。クリスティーナはめ
いぐるみたちと遊んでいたのですが、となりのいたずら
ぼうずのファッツがやってきて、一悶着。ファッツが「お
城」をけとばして、倒れてしまいました。

すぐに おかあさんが出てきて「お城は、もうおしま
いね。」と片付けようしますが・・・クリスティーナはま
だまだ、まだまだいろいろなものを作っていきます。段
ボールを使ってとことん遊びます。

アメリカでは、多くの教科書に掲載されてきたお話だ
ということで、絵もレトロな感じですが、段ボール
で遊ぶ楽しさは同じなんだな、とうれしくなりました。

(遠藤)